

## ■安全情報について

### ●事業者名

サンマリーナ・オペレーションズ株式会社  
沖縄県国頭郡恩納村字富着 66 番地 1  
シェラトン沖縄サンマリーナリゾート  
公式 HP: <https://sheraton-okinawa.co.jp>

### ●事業の種類

- ・旅客不定期航路事業（平成 22 年 4 月 13 日許可）
- ・人の運送をする不定期航路事業（令和 4 年 10 月 31 日届出）

### ●安全統括管理者及び運航管理者に係わる情報

- ・安全統括管理者：マリン&ビーチ支配人 令和 5 年 7 月 28 日選任
- ・運航管理者：マリン&ビーチマネージャー 令和 5 年 2 月 3 日選任  
マリン&ビーチマネージャー 令和 5 年 2 月 3 日選任  
マリン&ビーチアシスタントマネージャー 令和 5 年 2 月 3 日選任  
マリン&ビーチスーパーバイザー 令和 5 年 2 月 3 日選任

### ●輸送の安全に関する基本的な方針

船舶事業活動を行う当社において、安全運航の確保は会社の存立基盤であり、私達の社会的な責務であります。安全を確保するため経営の強い意志と社員それぞれの自らの役割と責任の自覚のもと全力を上げて、安全なる運航を遂行致します。そのために、次のとおり「安全方針」を定めます。

#### ①安全の意識

私達は、お客様の安全を最優先します。

#### ②意識の向上

私達は、安全の大切さを常に考えながら業務に取り組み、安全に対する意識の向上を図ります。

#### ③法規等の遵守

私達は、安全に関する法令及び社内規則を遵守します

#### ④安全管理体制の見直し

私達は、時代に合わせた安全管理体制を維持する為に断続的な見直し改善を実施します。

⑤事故の未然防止

私達は、事故を未然に防ぐため、常に情報の収集を努め、その情報を共有します。

⑥報告の義務

私達は、安全を損なう情報を入手したときは、速やかに決められたルールで報告します。

●輸送の安全に関する重点施策及びその達成状況

・2024年度達成状況

①安全方針に基づき、安全レベルの一層の向上を図ります。

⇒安全運航に努め事故ゼロ。

②「ヒアリ・ハット」情報の収集を行い、環境改善を図り事故防止と安全意識の向上を図ります。

⇒毎月、安全衛生委員会を開催し情報収集と対策により怪我ゼロ。

③社員の研修・訓練の推進、また連携を図る体制を構築し、輸送の安全の確保に努める。

⇒研修参加、海難事故訓練を実施。

④安全の維持向上のため、計画的に船舶整備等を実施し、船体・機体を良好な状態を維持に努める。

⇒大きなトラブルゼロ。

・2025年度重点施策

①安全方針に基づき、安全レベルの一層の向上を図ります。

目標：運航可否の判断の適切な実施により、気象悪化に伴う事故をゼロにする。

②「ヒアリ・ハット」情報の収集を行い、環境改善を図り事故防止と安全意識の向上を図ります。

目標：安全衛生の情報収集と対策によりゲスト及び修乗員の怪我をゼロにする。

③社員の研修・訓練の推進、また連携を図る体制を構築し、輸送の安全の確保に努める。

目標：事故想定訓練を実施する。衝突事故、乗揚げ事故をゼロにする。

④安全の維持向上のため、計画的に船舶整備等を実施し、船体・機体を良好な状態を維持に努める。

目標：機関トラブルによる火災事故、船体トラブルによる浸水沈没事故をゼロにする。

●安全教育への取り組み

- ・船舶事故想定訓練として、火災事故と乗揚げ事故を想定した、緊急連絡、避難誘導、救助の総合訓練を実施。(2024年度は12月と3月に実施)
- ・その他訓練として、落水者救助、火災消火、津波避難誘導、AED 取り扱い、消火器取り扱い、応急手当等の訓練を実施。



●船舶情報（8隻）

船舶名 (総トン数)	旅客 定員	小型船舶用 救命設備	連絡設備	船舶検査証 交付年月日	保険契約期間	旅客定員 1人あたりの 賠償限度額
サンマリーナ (19トン)	29名	・救命胴衣 大人53 小人10 ・救命浮器 3個 ・救命浮環 2個	・衛生電話 ・携帯電話 ・無線機 ・AIS	令和6年 6月21日	令和7年 3月28日 から 1年間	1億円
サンマリーナ 2世 (5トン未満)	12名	・救命胴衣 大人23 小人5 ・救命浮環 1個	・衛生電話 ・携帯電話 ・無線機 ・AIS	令和1年 12月19日	令和7年 3月28日 から 1年間	5千万円
サンマリーナ 3世 (5トン未満)	28名	・救命胴衣 大人30 ・救命浮環1個	・衛生電話 ・携帯電話 ・無線機 ・AIS	令和6年 9月25日	令和7年 3月28日 から 1年間	1億円
サンマリーナ 6世 (5トン未満)	11名	・救命胴衣 大人12 ・救命浮環 1個	・衛生電話 ・携帯電話 ・無線機 ・AIS	令和4年 9月15日	令和7年 3月28日 から 1年間	5千万円
サンマリーナ 7世 (3トン)	24名	・救命胴衣 大人44 小人8 ・救命浮環 1個	・衛生電話 ・携帯電話 ・無線機 ・AIS	令和6年 3月21日	令和7年 3月28日 から 1年間	1億円
サンマリーナ 8世 (1.6トン)	6名	・救命胴衣 大人7 ・救命浮環 1個	・衛生電話 ・携帯電話 ・無線機 ・AIS	令6年 4月26日	令和7年 3月28日 から 1年間	5千万円
サンマリーナ 10世 (5.1トン)	12名	・救命胴衣 大人22 小人5 ・救命浮環 1個	・衛生電話 ・携帯電話 ・無線機 ・AIS	令和1年 7月23日	令和7年 3月28日 から 1年間	5千万円
サンマリーナ 11世 (4.9トン)	28名	・救命胴衣 大人30 ・救命浮環 1個	・衛生電話 ・携帯電話 ・無線機 ・AIS	令和2年 11月20日	令和7年 3月28日 から 1年間	1億円

※救命胴衣については、上記定員分の常時船舶搭載以外にも子供用や腰巻膨張式の準備があります。

各船舶において、救命胴衣の格納場所の表示もございます。

※上記記載の保険に加え、搭乗中の方を対象とする普通傷害保険があります。(死亡・後遺障害300万円、入院日額3,000円、通院日額2,000円)

# 安全管理規程

サンマリーナ・オペレーションズ株式会社

## 目 次

- 第1章 総則
- 第2章 経営トップの責務
- 第3章 安全管理の組織
- 第4章 安全統括管理者及び運航管理者等の選解任並びに代行の指名
- 第5章 安全統括管理者及び運航管理者等の勤務体制
- 第6章 安全統括管理者及び運航管理者等の職務及び権限
- 第7章 安全管理規程の変更
- 第8章 運航計画、配船計画及び配乗計画
- 第9章 運航の可否判断
- 第10章 運航に必要な情報の収集及び伝達
- 第11章 輸送に伴う作業の安全の確保
- 第12章 輸送施設の点検整備
- 第13章 海難その他の事故の処理
- 第14章 安全に関する教育、訓練及び内部監査等
- 第15章 雑 則

## 第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、経営トップが定める明確な安全方針に基づき、社内に安全最優先意識の徹底を図り、全従業員がこれを徹底して実行すべく、当社の使用する旅客船（以下「船舶」という。）の業務（付随する業務を含む。以下同じ。）を安全、適正かつ円滑に処理するための責任体制及び業務実施の基準を明確にし、もって全社一丸となって輸送の安全を確保することを目的とする。

(用語の意義)

第2条 この規程における用語の意義は、次表に定めるところによる。

番号	用語	意義
(1)	安全マネジメント態勢	経営トップにより、社内で行われる安全管理が、あるべき手順及び方法に沿って確立され、実施され、維持される状態
(2)	経営トップ	事業者において最高位で指揮し、管理する個人又はグループ
(3)	安全方針	経営トップがリーダーシップを発揮して主体的に関与し設定された輸送の安全を確保するための会社全体の意図及び方向性
(4)	安全重点施策	安全方針に沿って追求し、達成を目指すための具体的施策
(5)	安全統括管理者	経営トップの中から選出した、輸送の安全を確保するための管理業務を統括管理する者
(6)	運航管理者	船長の職務権限に属する事項以外の船舶の運航の管理に関する統括責任者
(7)	運航管理員	運航管理者以外の者で船舶の運航の管理に従事する者
(8)	副運航管理者	特定の区域内にある船舶の運航の管理に関し、運航管理者を補佐し、かつ、運航管理者の職務のうち特定の職務を分掌する者
(9)	運航管理補助者	運航管理者又は副運航管理者の職務を補佐する者
(10)	運航管理者代行	運航管理者が職務を執行できないとき、その職務を代行する者
(11)	副運航管理者代行	副運航管理者が職務を執行できないとき、その職務を代行する者
(12)	陸上作業員	陸上において、旅客の整理、誘導等の作業に従事する者
(13)	船内作業員	船舶上において、旅客の整理、誘導等の作業に従事する者
(14)	運航計画	起終点、航行経路、航海速力等に関する計画
(15)	配船計画	運航計画を実施するための船舶の特定、当該船舶の回航及び入渠、予備船の投入等に関する計画
(16)	配乗計画	乗組員の編成、勤務割り等に関する計画
(17)	発航	現在の停泊場所を解らんして目的の航行を開始すること
(18)	基準航行	基準経路を基準速力により航行すること
(19)	港内	港則法に定める港の区域内(港則法に定めのない港については港湾法の港湾区域内、港則法及び港湾法の適用のない港については社会通念上港として認められる区域内)。ただし、港域が広大であって船舶の運航に影響を与えるおそれのない港域を除く。
(20)	入港	港の区域内、港湾区域内等において、狭水路、関門等を通航して防波堤等の内部へ進航すること
(21)	運航	「発航」、「基準経路及び基準速力による航行の継続」又は「入港(着岸)」を行うこと
(22)	反転	目的の航行の継続を中止し、発航地点へ引返すこと
(23)	気象・海象	風速(10分間の平均風速)、視程(目標を認めることができる最大距離。)ただし、視程が方向によって異なる場合はその中の最小値をとる。)及び波高(隣り合った波の峰と谷との鉛直距離)
(24)	運航基準図	航行経路(起終点、針路、変針点等)、航海速力、船長が甲板上の指揮をとるべき区間、その他航行の安全を確保するために必要な事項を記載した図面

(25)	船舶上	船舶の舷側より内側。ただし、舷てい、歩み板、シップランプ等船舶側から属具又は施設を架設した場合はその先端までを含む。
(26)	陸上	船舶上以外の場所。ただし陸上施設の区域内に限る。
(27)	危険物	危険物船舶運送及び貯蔵規則第2条に定める危険物
(28)	陸上施設	岸壁（防舷設備を含む。）、旅客待合室等船舶の係留、旅客の乗降等の用に供する施設

（運航基準、作業基準及び事故処理基準）

第3条 この規程の実施を図るため、運航基準、作業基準及び事故処理基準を定める。

- 2 船舶の運航については、この規程及び運航基準に定めるところによる。
- 3 旅客の乗下船、船舶の離着岸等に係る作業方法、危険物の取扱い、旅客への遵守事項の周知等については、この規程及び作業基準に定めるところによる。
- 4 事故発生時の非常連絡の方法、事故処理組織、その他事故の処理に必要な事項については、この規程及び事故処理基準に定めるところによる。

## 第2章 経営トップの責務

（経営トップの主體的関与）

第4条 船舶による輸送の安全確保のため、経営トップは次に掲げる事項について主體的に関与し、当社全体の安全マネジメント態勢を適切に運営する。

- (1) 関係法令及び社内規程の遵守と安全最優先の原則の徹底
- (2) 安全方針の設定
- (3) 安全重点施策の策定及び確実な実行
- (4) 重大な事故等に対する確実な対応
- (5) 安全マネジメント態勢を確立し、実施し、維持するために、かつ、輸送の安全を確保するために必要な要員、情報、輸送施設等を確実に使用できるようにすること
- (6) 安全マネジメント態勢の見直し

（経営トップの責務）

第5条 経営トップは、確固たる安全マネジメント態勢の実現を図るため、その責務を的確に果たすべく、次条以下に掲げる内容について、確実に実施する。

- 2 経営トップは、事業の輸送の安全を確保するための管理業務の実施範囲を明らかにする。

（安全方針）

第6条 経営トップは、安全管理にかかわる当社の全体的な意図及び方向性を明確に示した安全方針を設定し、当社内部へ周知する。

- 2 安全方針には輸送の安全確保を的確に図るために、次の事項を明記する。
  - (1) 関係法令及び社内規程の遵守と安全最優先の原則
  - (2) 安全マネジメント態勢の継続的改善
- 3 安全方針は、その内容について効果的・具体的な実現を図るため、経営トップの率先垂範により、周知を容易かつ効果的に行う。
- 4 安全方針は、必要に応じて見直しを行う。

（安全重点施策）

第7条 安全方針に沿って、具体的な施策を実施するため、安全重点施策を策定し実施する。

- 2 安全重点施策は、それを必要とする部門や組織の階層グループがそれぞれ策定し、その達成度が把握できるような実践的かつ具体的なものとする。
- 3 安全重点施策は、これを実施するための責任者、手段、日程等を含むものとする。
- 4 安全重点施策を毎年、進捗状況を把握するなどして見直しを行う。

## 第3章 安全管理の組織

（安全管理の組織）

第8条 この規程の目的を達成するため、次のとおり安全統括管理者、運航管理者及び運航管理補助者を置く。

- (1) 本社 安全統括管理者 1 人  
運航管理者 4 人  
運航管理補助者 5 人

#### 第4章 安全統括管理者及び運航管理者等の選解任並びに代行の指名

(安全統括管理者の選任)

第9条 経営トップは、経営トップに位置づけられ、海上運送法施行規則第22条の2の2に規定された要件に該当する者の中から安全統括管理者を選任する。

(運航管理者の選任)

第10条 経営トップは、安全統括管理者の意見を聴いて海上運送法施行規則第7条の2の3に規定する要件に該当する者の中から運航管理者を選任する。

(安全統括管理者及び運航管理者の解任)

第11条 経営トップは、安全統括管理者又は運航管理者が次の各号のいずれかに該当することとなったときは、当該安全統括管理者又は運航管理者を解任するものとする。

(1) 国土交通大臣の解任命令が出されたとき

(2) 身体の故障その他やむを得ない事由により職務を引続き行うことが困難になったとき

(3) 安全管理規程に違反することにより、安全統括管理者又は運航管理者がその職務を引続き行うことが輸送の安全の確保に支障を及ぼすおそれがあると認められるとき

(運航管理補助者の選任及び解任)

第12条 経営トップは、安全統括管理者及び運航管理者の推薦により運航管理補助者を選任する。

2 経営トップは、安全統括管理者及び運航管理者の意見を聴いて運航管理補助者を解任する。

(運航管理者代行の指名)

第13条 運航管理者は、本社の運航管理補助者の中から運航管理者代行を指名しておくものとする。

2 前項の場合において、運航管理者は2人以上の者を順位を付して指名することが出来る。

#### 第5章 安全統括管理者及び運航管理者等の勤務体制

(安全統括管理者の勤務体制)

第14条 安全統括管理者は、常時連絡できる体制になければならない。

2 安全統括管理者がその職務を執ることができないときは経営トップが職務を執るものとする。

(運航管理者の勤務体制)

第15条 運航管理者は、船舶が就航している間は、原則として本社に勤務するものとし、船舶の就航中に職場を離れるときは運航管理補助者と常時連絡できる体制になければならない。

2 運航管理者は、前項の連絡の不能その他の理由により、その職務を執ることができないと認めるときは、あらかじめ運航管理者代行にその職務を引継いでおくものとする。ただし、引継ぎ前に運航管理者と運航管理補助者の連絡が不能となったときは、連絡がとれるまでの間運航管理者代行が自動的に運航管理者の職務を執るものとする。

(運航管理補助者の勤務体制)

第16条 運航管理補助者は、船舶が就航している間は、原則として本社に勤務するものとする。勤務中、やむを得ず職場を離れる等その職務を執ることができないと認めるときは、あらかじめその旨を運航管理者に連絡しなければならない。

#### 第6章 安全統括管理者及び運航管理者等の職務及び権限

(安全統括管理者の職務及び権限)

第17条 安全統括管理者の職務及び権限は、次のとおりとする。

(1) 安全マネジメント態勢に必要な手順及び方法を確立し、実施し、維持すること。

(2) 安全マネジメント態勢の課題又は問題点を把握するために、安全重点施策の進捗状況、情報伝達及びコミュニケーションの確保、事故等に関する報告、是正措置及び予防措置の実施状況等、安全マネジメント態勢の実施状況及び改善の必要性の有無を経営トップへ報告し、記録すること。

(3) 関係法令の遵守と安全最優先の原則を当社内部へ徹底するとともに、安全管理規程の遵守を確実にすること。



と。

(運航管理者の職務及び権限)

第18条 運航管理者の職務及び権限は、次のとおりとする。

(1) この規程の次章以下に定める職務を行うほか、船長の職務権限に属する事項を除き、船舶の運航の管理及び輸送の安全の確保に関する業務全般を統轄し、安全管理規程の遵守を確実にしてその実施の確保を図ること。

(2) 船舶の運航に関し、船長と協力して輸送の安全を確保すること。

(3) 運航管理補助者及び陸上作業員を指揮監督すること。

2 運航管理者の職務及び権限は、法令に定める船長の職務及び権限を侵し、又はその責任を軽減するものではない。

(運航管理補助者の職務)

第19条 運航管理補助者は、運航管理者を補佐するほか、運航管理者がその職務を執行できないときは、第13条第2項の順位に従いその職務を代行するものとする。

2 運航管理補助者は、運航管理者の指揮を受けて次の事項を実施するものとする。

(1) 陸上における危険物その他旅客の安全を害するおそれのある物品の取扱いに関する作業の指揮監督

(2) 陸上における旅客の乗下船、並びに船舶の離着岸の際における作業の指揮監督並びに船舶上におけるこれらの作業に関する船長への助言

(3) 陸上施設の点検及び整備

(4) 乗船待ちの旅客に対する遵守事項等の周知

## 第7章 安全管理規程の変更

(安全管理規程の変更)

第20条 安全統括管理者又は運航管理者は、それぞれの職務に関し、関係法令の改正、社内組織又は使用船舶の変更、航路の新設又は廃止等この規程の内容に係る事項に常に留意し、当該事項に変更が生じたときは、船長の意見を聴取のうえ、遅滞なく規程の変更を発議しなければならない。

2 安全統括管理者は、前項の発議をしようとするときは、船長の意見を十分に聴取しなければならない。

3 経営トップは、前項の発議があったときは、関係の責任者の意見を参考として規程の変更を決定する。

## 第8章 運航計画、配船計画及び配乗計画

(運航計画及び配船計画の作成及び改定)

第21条 運航計画又は配船計画を作成又は改定する場合は、運航管理者は使用船舶の性能、使用港の港勢、航路の交通状況及び自然的性質等についてその安全性を検討するものとする。

(配乗計画の作成及び改定)

第22条 配乗計画を作成又は改定する場合は、運航管理者は法定職員が適正に確保されているか、乗組員が過労になることはないか、航路に精通した船舶職員が乗組むこととなっているか等について、その安全性を検討するものとする。

(運航計画、配船計画及び配乗計画の臨時変更)

第23条 運航計画、配船計画又は配乗計画を臨時に変更する必要がある場合は、前2条に準じ運航管理者がその安全性を検討するものとする。

2 船舶、陸上施設又は港湾の状況が船舶の運航に支障を及ぼすおそれがあると認められる場合は、船長及び運航管理者は、協議により運航休止の運航計画又は配船計画の臨時変更の措置をとらなければならない。

## 第9章 運航の可否判断

(運航の可否判断)

第24条 船長は、適時、運航の可否判断を行い、気象・海象が一定の条件に達したと認めるとき又は達するおそれがあると認めるときは、運航中止の措置をとらなければならない。

2 船長は、運航中止に係る判断を行うにあたって、自ら直ちに判断することが困難で詳細な検討を行う必要があると認めるときは、運航管理者と協議するものとする。

3 運航管理者は、台風等の荒天時において、船長からの求めがある場合には、第28条各事項の情報提供を行うとともに、必要に応じ、避航や錨泊による運航中止の措置に関する助言等適切な援助に努めるものとする。

- 4 第2項の協議において両者の意見が異なるときは、運航を中止しなければならない。
- 5 船長は、運航中止の措置をとったときは、速やかに、その旨を運航管理者に連絡しなければならない。
- 6 運航管理者は、船長が運航中止の措置又は運航の継続措置をとったときは、速やかに、その旨を安全統括管理者へ連絡しなければならない。
- 7 運航中止の措置をとるべき気象・海象の条件及び運航中止の後に船長がとるべき措置については、運航基準に定めるところによる。  
(運航管理者の指示)

第25条 運航管理者は、運航基準の定めるところにより運航が中止されるべきであると判断した場合において、船長から運航を中止する旨の連絡がないとき又は運航する旨の連絡を受けたときは、船長に対して運航の中止を指示するとともに、安全統括管理者へ連絡しなければならない。

- 2 運航管理者は、いかなる場合においても船長に対して発航、基準航行の継続又は着岸を促し若しくは指示してはならない。

(経営トップ又は安全統括管理者の指示)

第26条 経営トップ又は安全統括管理者は、濃霧注意報の発令など運航基準の定めるところにより運航が中止されるおそれがある情報を入手した場合、直ちに、運航管理者へ運航の可否判断を促さなければならない。

- 2 経営トップ又は安全統括管理者は、運航管理者から船舶の運航を中止する旨の連絡があった場合、それに反する指示をしてはならない。
- 3 経営トップ又は安全統括管理者は、船長が運航の可否判断を行い、運航を継続する旨の連絡が(運航管理者を経由して)あった場合は、その理由を求めなければならない。理由が適切と認められない場合は、運航中止を指示しなければならない。

(運航の可否判断等の記録)

第27条 運航管理者及び船長は、運航中止基準にかかる情報、運航の可否判断、運航中止の措置及び協議の結果等を記録しなければならない。

## 第10章 運航に必要な情報の収集及び伝達

(運航管理補助者の措置)

第28条 運航管理者は、次に掲げる事項を把握し、(4)及び(5)については必ず、その他の事項については必要に応じ船長に連絡するものとする。

- (1) 気象・海象に関する情報
- (2) 港内事情、航路の自然的性質
- (3) 陸上施設の状況
- (4) 水路通報、港長公示等官公庁の発する運航に関する情報
- (5) 乗船した旅客数
- (6) 待合所における乗船待ちの旅客数
- (7) 船舶の動静
- (8) その他航行の安全の確保のために必要な事項

(船長の措置)

第29条 船長は、次に掲げる場合には必ず運航管理者に連絡しなければならない。ただし、(1)及び(2)については運航管理補助者への連絡をもって代えることができる。

- (1) 発航前検査を終え出港するとき
- (2) 着岸したとき
- (3) 事故処理基準に定める事故が発生したとき
- (4) 運航計画又は航行の安全に係わりを有する船体、機関その他設備等に修理又は整備を必要とする事態が生じたとき

- 2 船長は、次に掲げる事項の把握に努め必要に応じ運航管理者に連絡するものとする。

- (1) 気象・海象に関する情報
- (2) 障害物(浮流物)及び鯨類の目撃に関する情報
- (3) 海上保安官署、航行中の他の船舶より発せられる運航に関する情報等
- (4) その他航行中の水路の状況

(運航基準図)

第 30 条 運航管理者は、船長と協議して運航基準図を各航路及び各船舶ごとに作成し、各船舶及び本社に備え付けなければならない。

2 運航基準図に記載すべき事項は、運航基準に定めるところによる。

## 第 11 章 輸送に伴う作業の安全の確保

(危険物等の取扱い)

第 31 条 危険物その他の旅客の安全を害するおそれのある物品の取扱いは、法令及び作業基準に定めるところによる。

(旅客の乗下船等)

第 32 条 旅客の乗下船及び船舶の離着岸時の作業については作業基準に定めるところによる。

(発航前点検)

第 33 条 船長は、発航前に船舶が航海に支障ないかどうか、その他航海に必要な準備が整っているかどうか等点検箇所、点検要領を定めた点検簿を作成しそれに従い発航前点検をしなければならない。

(船内点検)

第 34 条 船長は、航海中、船内の状況に留意し、直接状況を見られない場所その他必要と認める場所については乗組員に点検させるものとする。

(船内巡視)

第 34 条の 2 船長は、別紙「船内巡視実施要領」に従い乗組員をして旅客室その他必要と認める場所を巡視させ、法令及び運送約款に定める旅客等が遵守すべき事項の遵守状況その他異常の有無を確認させなければならない。

2 船内巡視員は、異常を発見したときは船長の指示を受けて所要の措置を講じなければならない。ただし急を要する場合であって船長の指示を受ける時間的余裕がないときは、適切な措置を講じるとともに速やかに船長に報告するものとする。

3 船内巡視員は、異常の有無（安全確保上改善を必要とする事項がある場合の当該事項を含む。）を船長に報告し、巡視結果を巡視記録簿に記録するものとする。

第 35 条 運航管理者及び船長は、作業基準に定めるところにより、陸上及び船内において旅客等の遵守すべき事項及び注意すべき事項の周知徹底を図らなければならない。

(飲酒等の禁止)

第 36 条 安全統括管理者は、アルコール検知器を用いたアルコール検査制度を構築しなければならない。

2 乗組員は、飲酒等の後、正常な当直業務ができるようになるまでの間及びいかなる場合も呼気 1 リットル中のアルコール濃度が 0.15 mg 以上である間、当直を実施してはならない。

3 船長は、乗組員が飲酒等の後、正常な当直業務ができるようになるまでの間及びいかなる場合も呼気 1 リットル中のアルコール濃度が 0.15 mg 以上である間、当直を実施させてはならない。

## 第 12 章 輸送施設の点検整備

(船舶検査結果の確認)

第 37 条 運航管理者は、船舶が法令に定める船舶検査を受検したときは、当該検査の結果を確認しておくものとする。

(船舶の点検整備)

第 38 条 船長は、船体、機関、諸設備、諸装置等について、点検簿を作成し、それに従って、出航前に原則として一回以上点検を実施するものとする。

2 船長は、前項の点検中、異常を発見したときは、直ちにその概要を運航管理者に報告するとともに、修復整備の措置を講じなければならない。

(陸上施設の点検整備)

第 39 条 運航管理者、運航管理補助者又は船長は、陸上施設点検簿に基づいて、毎日 1 回以上、係留施設（浮き桟橋、岸壁、ビット、防舷材等）、乗降用施設（タラップ、歩み板等）、転落防止施設（ハンドレール、チェーン等）等について点検し、異常のある個所を発見したときは、直ちに修復整備の措置を講じなければならない。

なお、当該施設が港湾管理者その他の者の管理に属するものである場合は、当該施設の管理者に通知して、その修復整備を求めるものとする。

## 第 13 章 海難その他の事故の処理

(事故処理にあたっての基本的態度)

第40条 事故の処理にあたっては、次に掲げる基本的態度で臨むものとする。

- (1) 人命の安全の確保を最優先とすること。
- (2) 事態を楽観視せず常に最悪の事態を念頭におき措置を講ずること。
- (3) 事故処理業務は、すべての業務に優先して実施すること。
- (4) 船長の対応措置に関する判断を尊重すること。
- (5) 陸上従業員は、陸上でとりうるあらゆる措置を講ずること。

(船長のとるべき措置)

第41条 船長は、自船に事故が発生したときは、人命の安全の確保のための万全の措置、事故の拡大防止のための措置、旅客の不安を除去するための措置等必要な措置を講ずるとともに、事故処理基準に定めるところにより、事故の状況及び講じた措置を速やかに運航管理者及び海上保安官署等に連絡しなければならない。この場合において措置への助言を求め、援助を必要とするか否かの連絡を行わなければならない。

2 船長は、自船が重大かつ急迫の危険に陥った場合又は陥るおそれがある場合は、直ちに遭難通信(遭難信号)又は緊急通信を発しなければならない。なお、(携帯)電話がある場合は、併せて「118番」へ通報しなければならない。」

(運航管理者のとるべき措置)

第42条 運航管理者は、船長からの連絡等によって事故の発生を知ったとき又は船舶の動静を把握できないときは、事故処理基準に定めるところにより必要な措置をとるとともに、安全統括管理者へ速報しなければならない。

(経営トップ及び安全統括管理者のとるべき措置)

第43条 安全統括管理者は、運航管理者等からの連絡によって事故の発生を知ったときは、事故処理基準に定めるところにより必要な措置をとるとともに、経営トップへ速報しなければならない。

2 経営トップ及び安全統括管理者は、事故状況、被害規模等を把握・分析し、適切に対応措置を講じなければならない。また、現場におけるリスクを明確にし、必要な対応措置を講じなければならない。

(事故の処理)

第44条 事故の処理は、事故処理基準に定める事故処理組織により行うものとする。

(通信の優先処理)

第45条 事故関係の通信は、最優先させ、迅速かつ確実に処理されなければならない。通信運用の責任者は、あらかじめ事故時の通信回線の確保及び統制のための手引きを定めておき、事故処理に際しては、速やかに通信回線の確保及び統制のために必要な措置をとらなければならない。

(関係官署への報告)

第46条 運航管理者は、事故の発生を知ったときは、速やかに関係運輸局(神戸運輸監理部及び沖縄総合事務局を含む。以下「運輸局等」という。)及び海上保安官署にその概要及び事故処理の状況を報告し助言を求めなければならない。

(事故の原因等の調査)

第47条 安全統括管理者及び運航管理者は、それぞれの職務に応じ、事故の原因及び事故処理の適否を調査し、事故の再発の防止及び事故処理の改善を図るものとする。

## 第14章 安全に関する教育、訓練及び内部監査等

(安全教育)

第48条 安全統括管理者及び運航管理者は、運航管理補助者、運航管理員、乗組員、安全管理に従事する者、内部監査を担当する者に対し、安全管理規程(運航基準、作業基準及び事故処理基準を含む。)、船員法及び海上衝突予防法等の関係法令その他輸送の安全を確保するために必要と認められる事項について理解しやすい具体的な安全教育を定期的実施し、その周知徹底を図らなければならない。

2 運航管理者は、航路の状況、海難その他の事故及びインシデント(事故等の損害を伴わない危険事象)事例を調査研究し、随時又は前項の教育に併せて乗組員に周知徹底を図るものとする。

(操練)

第49条 船長は、法令に定める操練を行ったときは、その実施状況を運行管理者に報告するものとする。

(訓練)

第50条 安全統括管理者及び運航管理者は、経営トップの支援を得て事故処理に関する訓練を計画し、年1回以

上これを実施しなければならない。訓練は、全社的体制で処理する規模の事故を想定した実践的なものとする。

2 訓練の前後には打合せを行い、特記事項があれば経営トップへ意見具申する。

(記録)

第51条 運航管理者は、前3条の教育等を実施したときは、その概要を記録簿に記録しておくものとする。

(内部監査及び見直し)

第52条 内部監査を行う者は、経営トップの支援を得て関係者ととも年1回以上船舶及び陸上施設の状況並びに安全管理規程の遵守状況の他、安全マネジメント態勢全般にわたり内部監査を行うものとし、船舶の監査は停泊中及び航海中の船舶について行うものとする。さらに、重大事故が発生した場合には速やかに実施する。

2 内部監査にあたっては、経営トップは、その重要性を社内に周知徹底する。

3 内部監査を行うに際し、安全マネジメント態勢の機能全般に関し見直しを行い、改善の必要性、実施時期について評価し、改善に向け作業する。

4 内部監査及び見直しを行ったときは、その内容を記録する。

5 内部監査を行う者は、安全統括管理者及び運航管理者等が業務の監査を行うほか、特に陸上側の安全マネジメント態勢については、監査の客観性を確保するため当該部門の業務に従事していない者が監査を行う。

## 第15章 雑則

(安全管理規程等の備付け等)

第53条 安全統括管理者及び運航管理者は、それぞれの職務に応じ、安全管理規程(運航基準、作業基準及び事故処理基準を含む。)及び運航基準図を船舶、本社その他必要と認められる場所に、容易に閲覧できるよう備付けておかなければならない。

2 安全マネジメント態勢を確立し、実施し、維持するために、それぞれの職務に関し作成した各種文書はそれぞれの職務に応じ適切に管理する。

(情報伝達)

第54条 安全統括管理者は、パソコン、社内LAN等を活用した輸送の安全の確保に関する情報のデータベース化を行うとともに容易なアクセス手段を用意する。

2 輸送の安全に係る運航・整備等輸送サービスの実施に直接携わる部門が、現場の顕在的課題、潜在的課題等を、経営トップへの直接上申する手段(目安箱、社内メール等)を用意する。

3 安全統括管理者は前項の上申又はその他の手段他により安全にかかる意見等の把握に努め、その検討、実現反映状況等について社内へ周知する。

4 安全統括管理者は、輸送の安全を確保するために講じた措置を適宜の方法により外部に公表しなければならない。また、輸送の安全にかかる情報を適時、外部に対して公表する。

## 附則

この規程は、令和5年1月13日より実施する。

# 運航基準

サンマリーナ・オペレーションズ株式会社

## 目次

- 第1章 目的
- 第2章 運航の可否判断
- 第3章 船舶の航行

## 第1章 目的

(目的)

第1条 この基準は、安全管理規程に基づき、恩納村富着を起・終点とする残波岬沖、水納島沖及び喜瀬沖周遊航路の船舶の運航に関する基準を明確にし、もって航海の安全を確保することを目的とする。

## 第2章 運航の可否判断

(発航の可否判断)

第2条 船長は、発航前に運航の可否判断を行い、発航地港内の気象・海象が次に掲げる条件の一に達していると認めるときは、発航を中止しなければならない。

港名 \ 気象・海象	風速	波高	視程
恩納マリーナ内	12m/s以上	1.0m以上	500m以下

2 船長は、発航前において、航行中に遭遇する気象・海象（視程を除く。）に関する情報を確認し、次に掲げる条件に達するおそれがあるときは、発航を中止しなければならない。

風速	12m/s以上	波高	2.0m 以上
----	---------	----	---------

3 船長は、発航前において、当該発航港に近接した海域における視程に関する情報を確認し、それぞれ次に掲げる条件に達していることが観測され又は達するおそれがあると認めるときは、発航を中止しなければならない。

発航港 \ 海域及び視程	発航港に近接した海域	視程
恩納マリーナ内	恩納マリーナの港界線から2海里までの海域	500m以下

4 船長は、前3項の規定に基づき発航の中止を決定したときは、旅客の下船、保船措置その他の適切な措置をとらなければならない。

(基準航行の可否判断等)

第3条 船長は、基準航行を継続した場合、船体の動揺等により旅客の船内における歩行が著しく困難となるおそれがあると認めるときは、基準航行を中止し、減速、適宜の変針、基準経路の変更その他適切な措置をとらなければならない。

2 前項に掲げる事態が発生するおそれのあるおおよその海上模様は、次に掲げるとおりである。

風速	波浪	視程
12m/s以上 (船首尾方向の風を除く)	波高 2.0m以上	500m以下

3 船長は、航行中、周囲の気象・海象（視程を除く。）に関する情報を確認し、次に掲げる条件の一に達するおそれがあると認めるときは、目的港への航行の継続を中止し、反転、避泊又は臨時寄港の措置をとらなければならない。

風速	12m/s以上	波高	2.0m 以上
----	---------	----	---------

4 船長は、航行中、周囲の視程に関する情報を確認し、次に掲げる条件に達したと認めるときは、基準航行を中止し、当直体制の強化を図るとともにその時の状況に適した安全な速力とし、状況に応じて停止、航路外錨泊又は基準経路変更の措置をとらなければならない。

視程	500m以下
----	--------

(着岸の可否判断)

第4条 船長は、着岸予定の岸壁付近の気象・海象に関する情報を確認し次に掲げる条件の一に達していると認めるときは、着岸を中止し、適宜の海域での錨泊、抜港、着岸岸壁の変更その他の適切な措置をとらなければならない。

港名	気象・海象	風速	波高	視程
恩納マリーナ内		12m/s以上	2.0m以上	500m以下

(運航の可否判断等の記録)

第4条の2 運航管理者及び船長は、運航の可否判断、運航中止の措置及び協議の内容を運航管理日誌に記録するものとする。運航中止基準に達した又は達するおそれがあった場合における運航継続の措置については、判断理由を記載すること。短い航路における運航の可否判断については適時まとめて記載してもよい。

### 第3章 船舶の航行

(航海当直配置等)

第5条 船長は、運航管理者と協議して次の配置を定めておくものとする。変更する場合も同様である。

- (1) (狭視界) 出入港配置
  - (2) 通常航海当直配置
  - (3) 狭視界航海当直配置
  - (4) 荒天航海当直配置
  - (5) 狭水道航行配置
- (運航基準図等)

第6条 運航基準図に記載すべき事項は次のとおりとする。

なお、運航管理者は、当該事項のうち必要と認める事項について運航基準図の分図、別表等を作成して運航の参考に資するものとする。

- (1) 起点及び終点の位置並びに相互間の距離
- (2) 航行経路(針路、変針点、基準経路の名称等)
- (3) 標準運航時刻(起点及び終点の発着時刻並びに主要地点通過時刻)
- (4) 船長が甲板上の指揮をとるべき狭水道等の区間
- (5) 通航船舶、漁船等により、通常、船舶がふくそうする海域
- (6) その他航行の安全を確保するために必要な事項

2 船長は、基準経路、第2条第3項の近接海域、避険線その他必要と認める事項を常用海図に記入して航海の参考に資するものとする。

(基準経路)

第7条 基準経路は、運航基準図に記載のとおりAコース、Bコース、Cコース、DコースおよびEコースの5経路とする。

名称	使用基準
Aコース	周年
Bコース	周年
Cコース	周年
Dコース	周年
Eコース	周年



(速力基準等)

第8条 速力基準は、次表のとおりとする。

汽船サンマリーナ

速力区分	速力	毎分機関回転数
微速	2ノット	600rpm
半速	8ノット	1,800rpm
航海速力	13ノット	3,200rpm
最大速力	15ノット	3,500rpm

汽船サンマリーナ3世

速力区分	速力	毎分機関回転数
微速	1ノット	700rpm
半速	5ノット	1,500rpm
航海速力	8ノット	1,800rpm
最大速力	10ノット	2,000rpm

汽船サンマリーナ7世

速力区分	速力	毎分機関回転数
微速	2ノット	600rpm
半速	8ノット	1,200rpm
航海速力	15ノット	2,500rpm
最大速力	25ノット	5,500rpm

汽船サンマリーナ11世

速力区分	速力	毎分機関回転数
微速	2.5ノット	600rpm
半速	8ノット	1,600rpm
航海速力	15ノット	3,000rpm
最大速力	31ノット	4,900rpm

汽船サンマリーナ2世

速力区分	速力	毎分機関回転数
微速	2ノット	700rpm
半速	8ノット	1,500rpm
航海速力	12ノット	2,000rpm
最大速力	17ノット	2,400rpm

汽船サンマリーナ6世

速力区分	速力	毎分機関回転数
微速	2ノット	600rpm
半速	8ノット	1,500rpm
航海速力	13ノット	1,800rpm
最大速力	15ノット	2,000rpm

汽船サンマリーナ 8 世

速力区分	速力	毎分機関回転数
微 速	2 ノット	800rpm
半 速	10 ノット	1,500rpm
航海速力	15 ノット	2,000rpm
最大速力	30 ノット	4,000rpm

汽船サンマリーナ 10 世

速力区分	速力	毎分機関回転数
微 速	2.5 ノット	600rpm
半 速	8 ノット	1,500rpm
航海速力	20 ノット	2,000rpm
最大速力	30 ノット	2,800rpm

※後進推力は、上記の 50～60%

- 2 船長は、速力基準表を船橋内の操作する位置から見易い場所に掲示しなければならない。
- 3 船長は、旋回性能、惰力等を記載した操縦性能表を船橋に備え付けておかなければならない。  
(通常連絡等)

第 9 条 船長は、基準経路上の次の (1) の地点を通過したときは、本社あて次の (2) の事項を連絡しなければならない。

(1) 各航路の恩納マリーナより最も離れた距離にある折り返し地点

(2) 連絡事項

- ① 通過地点名
- ② 通過時刻
- ③ 天候、風向、風速、波浪、視程の状況
- ④ その他入港予定時刻等運航管理上必要と認める事項

- 2 運航管理補助者は、航行に関する安全情報等船長に連絡すべき事項を生じたときは、その都度速やかに連絡するものとする。

(連絡方法)

第 10 条 船長と (副) 運航管理者の連絡は、次の方法による。

	区分	連絡先	連絡方法
(1)	通常の場合	本社	携帯無線 149.47MHZ 10W 携帯電話 衛星電話
(2)	緊急の場合	本社	携帯無線 149.47MHZ 10W 携帯電話 衛星電話

(避泊地の選定等)

第 11 条 運航管理者は、船長と協力して選定した次の避泊地について海図をはじめ、係留施設、港湾工事の状況、漁具の設置状況、気象・海象のデータ等の資料を収集し、船舶その他必要な個所に備付けておくものとする。

(1) 恩納マリーナ

(2) 台風時には陸揚げする

- 2 船長は、気象・海象の悪化により避泊する必要があると認める場合は、風向、波浪の方向等を考慮して前項の避泊地のいずれかを選定するものとする。ただし、船長の判断により当時の気象・海象、他船の停泊状況等を考慮のうえ、さらに適当と判断される場所を選定することは差し支えない。
- 3 運航管理補助者は、船長から避泊地の選定に関し避泊地の気象・海象、他船の停泊状況等の情報を求められた場合は、速やかに適切な情報の提供を行うものとする。
- 4 船長は、避泊後直ちに停泊位置、停泊方法、付近の気象・海象、他船の停泊状況等を運航管理補助者に連絡し、その後 1 時間毎に付近の気象・海象、他船の停泊状況等を運航管理補助者に連絡しなければならない。
- 5 前項の連絡が運航管理補助者になされた場合は、運航管理補助者は、直ちに当該船舶の船長からの連絡事項を運航管理者に連絡しなければならない。

(着岸連絡等)

第12条 船長は、入港10分前となったときは、運航管理補助者に次の事項を連絡しなければならない。

(1) 入港予定時刻

(2) 運航管理補助者の援助を必要とする事項

2 前項の連絡を受けた運航管理補助者は、船長に次の事項を連絡するものとする

(1) 着岸岸壁の使用船舶の有無

(2) 着岸岸壁付近の停泊船舶の状況

(3) 岸壁付近の風向、風速、視程、波浪（風浪、うねりの方向、波高）及び潮流（流向、流速）

(4) その他操船上の参考となる事項

(機器点検)

第13条 船長は、着岸前、着岸地点100m等入港地の状況に応じ安全な海域において、機関の後進（C P Pの場合は翼角作動）、舵等の点検を実施する。これは、短い航路において、一日に何度も入出港を繰り返す場合も同様である。

(記録)

第14条 船長及び運航管理者は、基準航路の変更に関して協議を行った場合は、その内容を運航管理日誌、に記録するものとする。

# 作業基準

サンマリーナ・オペレーションズ株式会社

## 目次

- 第1章 目的
- 第2章 作業体制
- 第3章 危険物等の取扱い
- 第4章 乗下船作業
- 第5章 旅客の遵守事項等の周知

## 第1章 目的

(目的)

第1条 この基準は、安全管理規程に基づき、恩納村富着を起・終点とする残波岬沖、水納島沖及び喜瀬沖周遊航路の作業に関する基準を明確にし、もって輸送に関連する作業の安全を確保することを目的とする。

## 第2章 作業体制

(作業体制)

第2条 運航管理者又は運航管理補助者は、陸上作業員を指揮して陸上において、乗船待機中の旅客の整理、乗下船する旅客の誘導、船舶の離着岸時の綱取り及び綱放し等の作業を実施する。

2 船長は、船舶上における乗下船する旅客の誘導、離着岸時における諸作業を実施する。

## 第3章 危険物等の取扱い

(危険物等の取扱い)

第3条 危険物の取扱いは、危険物船舶運送及び貯蔵規則等関係法令に定めるところによるほか次によるものとする。

(1) 運航管理補助者、船長及び乗組員は、危険物運送の申込みがあったときは、直ちに、当該危険物の分類、品目、数量、容器及び包装を確認し、運航管理者に報告すること。

(2) 運航管理者は、報告のあった当該危険物運送が法令等に適合するものか否かを確認し、法令等に適合しないときは運送の引き受けを拒絶しなければならない。

(3) 運航管理者は、報告のあった当該危険物運送が法令等に適合するものであるときは、船舶への積載方法について船長と協議して運航管理補助者に指示し、船長に連絡すること。

2 刀剣、銃器、兵器その他旅客の安全を害するおそれのある物品（以下「刀剣等」という。）の取扱いは、次によるものとする。

(1) 運航管理補助者は、刀剣等の運送の申込があったときは、直ちに、運航管理者に当該刀剣等の品名及び数量を報告すること。

(2) 運航管理者は、報告のあった当該刀剣等について、運送を拒絶し、又は一定の条件を付して運送を引き受けるよう運航管理補助者、船長及び乗組員に指示すること。ただし、運送を引受ける場合であっても原則として客室に持込むことは拒絶しなければならない。

3 運航管理補助者及び乗組員は、旅客の手荷物及び小荷物、その他の物品が前2項に該当するおそれがあると認めるときは、運航管理者又は船長の指示を受けて、運送申込人の立合いのもとに点検し必要な措置を講ずるものとする。

4 運航管理補助者、船長及び乗組員は、前3項の措置を講じたときは、直ちに、当該措置を運航管理者に報告するものとする。

## 第4章 乗下船作業

(乗船待ちの旅客の整理)

第4条 陸上の旅客係員は、乗船待ちの旅客が船舶の離着岸作業等により危害を受けないよう、待合所等所定の場所に整理し待機させる等安全の確保に努める。

(旅客の乗船)

第5条 運航管理補助者及び船長は、旅客の乗船作業に関し十分な打合せを行い、各作業員に乗船開始時刻を周知する。原則として離岸10分前から乗船作業を開始する。

2 船長は、タラップ等の架設の完了を確認した後、運航管理補助者に乗船作業開始の合図をする。

3 運航管理補助者又は乗組員は、船長の合図を受けた後、旅客に乗船を開始するよう指示する。

4 運航管理補助者又は乗組員は、旅客を乗船口に誘導し、船長は乗船口から船内に誘導する。

5 運航管理補助者及び乗組員は、乗船旅客数（無料幼児を含む。）を把握し、旅客定員を超えていないことを確認して、運航管理者及び船長にそれぞれ報告する。

(離岸準備作業)

第6条 運航管理補助者は、原則として離岸時刻の5分前になったときは、旅客の乗船完了を確認した後、船長と連絡をとり遮断策を張り人道橋を収納する。

2 船長は、人道橋が収納された後、直ちに舷門を閉鎖する。

7 船長は、前各項の作業が終了したときは、速やかに乗船旅客数を確認する。

(離岸作業)

第7条 運航管理補助者は、離岸時刻5分前になったときは出港を放送させる(発航ベルを鳴らさせる)とともに見送り人等が離岸作業により危害を受けないよう退避させ、岸壁上の状況が離岸に支障ないことを確認して、その旨を船長に連絡し綱取りをする。

2 船長又は乗組員は、すべての出港準備作業が完了したことを確認したならば、他の船舶の動静その他周囲の状況が離岸に支障ないことを確認のうえ係留索を放し慎重に離岸する。

3 運航管理補助者は、迅速、確実に係留策を放す。

(着岸作業)

第8条 運航管理補助者は、迅速、確実に綱取作業を実施する。この場合、運航管理補助者は係留索の急緊張等により危害を受けることのないよう十分注意する。

2 船長又は乗組員は迅速、確実に係留作業を実施する。

3 船長又は乗組員は、船内放送等により着岸時の衝撃による旅客の転倒事故を防止するため、旅客へ着席や手すりへの掴まりを指示する。

(係留中の保安)

第9条 船長及び運航管理者は、係留中、旅客の安全に支障のないようタラップの保安及び係留方法に十分留意する。

(下船作業)

第10条 船長は、船体が完全に着岸したことを確認したときは、その旨運航管理補助者及び乗組員に下船のために必要な作業の開始を合図する。

2 船長は、運航管理補助者及び乗組員と協力してタラップを架設し、架設完了を確認した後、旅客を誘導し下船させる。

(下船の終了)

第11条 運航管理補助者又は乗組員は船長から旅客の下船が完了した旨の連絡を受けた後、タラップを収納する(タラップの通行を遮断する。)

2 運航管理補助者及び船長は、旅客の下船が完了したときは、その旨及び異常の有無を運航管理者に報告する。

## 第5章 旅客の遵守事項等の周知

(乗船待ち旅客に対する遵守事項等の周知)

第12条 運航管理者は、乗船待ちの旅客に対して次の事項を掲示等により周知しなければならない。周知事項の掲示は、旅客待合所とする。

(1) 旅客は、乗下船時、係員の誘導に従うこと。

(2) 船内においては、船長その他の乗組員の指示に従うこと。

(3) 船内においては、他人に危害を加えるような行為又は迷惑をかける行為をしないこと。

(4) その他旅客の安全に関して旅客に周知すべき事項。

(臨時に周知事項が生じた場合の当該事項を含む。)

3 放送設備がある場合は、できる限り放送による周知を併用するものとし、その場合は本文中「掲示等」を「放送及び掲示等」とする。

(乗船旅客に対する遵守事項等の周知)

第13条 船長は、乗船している対して次の事項を掲示等により周知しなければならない。周知事項の掲示は、船内の見やすい場所とする。

(1) 旅客の禁止行為が掲示されている場所及びその主要事項

(2) 救命胴衣の格納場所、着用方法

(3) 非常の際の避難要領(非常信号、避難経路等)

(4) 病気、盗難等が発生した場合の乗組員への通報

(5) その他旅客が遵守すべき事項

①下船及び非常の際は、係員の指示に従うこと。

2 船長は、船内の見やすい場所に前項各号の事項を掲示しておかなければならない。

(旅客に対する救命胴衣の着用に関する指示)

第 14 条 船長は、救命胴衣の着用に関し、旅客に対し以下の措置を講じなければならない。

- (1) 暴露甲板に乗船している旅客には、救命胴衣を着用させるよう努めること。
- (2) 12 歳未満の児童には、船室内にいる場合を除き、常時、救命胴衣を着用させること。
- (3) 気象、海象の悪化等、利用者の安全確保の為に必要と判断される場合は、救命胴衣を着用させること。

# 事故処理基準

サンマリーナ・オペレーションズ株式会社

## 目 次

- 第1章 総 則
- 第2章 事故等発生時の通報
- 第3章 事故の処理等



## 第1章 総則

(目的)

第1条 この基準は、安全管理規程に基づき、当社の運航中の船舶に係る事故等の処理に関し、安全管理規程の運用上の基準を明確にすることにより、事故等処理を迅速かつ適切に実施し、人命の安全の確保と損害の局限を図るとともに、事故等の原因等を究明し、将来の船舶の運航の安全に資することを目的とする。

(事故等の範囲)

第2条 この基準において、「事故」とは当社の運航中の船舶に係る(1)～(4)に掲げる事象をいい、「事故等」とは事故及び(5)の事態(以下「インシデント」という。)をいう。

- (1) 旅客、乗組員又はその他の乗船者の死亡、行方不明、負傷若しくは疾病又はその他の人身事故(以下「人身事故」という。)
- (2) 衝突、乗揚げ、火災、浸水、漂流、行方不明、機関停止等重大な機関故障又はその他の救助を必要とする船舶の海難事故
- (3) 航路の障害、港湾施設の損傷又は荒天等による運航の阻害
- (4) 強取(乗っ取り)、殺人、傷害又は暴行・脅迫等の不法行為による運航の阻害
- (5) 前記(1)～(3)の事象に至るおそれの大きかった事態

(軽微な事故への準用)

第3条 本事故処理基準は、必要に応じ、前条に定める事故以外の当社の運航中の船舶に係る事故に準用するものとする。

## 第2章 事故等発生時の通報

(非常連絡)

第4条 船長は、事故の状況を運航管理者に報告する場合は速報を旨とし、判明したものから逐次追報することにより次条の項目を網羅するよう心がけなければならない。

- 2 船長の海上保安官署等への連絡は、初動時は「118番」による。以後、別表「官公署連絡表」により最寄りの海上保安官署等に行うものとする。
- 3 運航管理者は事故が発生したときは、速やかに、事故の状況について判明したものから逐次電話(FAXを含む)又は口頭で沖縄総合事務局運輸部等に報告するものとする。インシデントが発生したときは、被害発生に及ばないことを見極めた上、後日資料化するものとするが、同種事案が再発する可能性が高い場合は、遅滞なく、その状況を沖縄総合事務局運輸部等に報告するものとする。非常連絡事項を記載した報告様式(FAX用紙)を船舶及び事務所に備え置くものとする。
- 4 非常連絡は、原則として、別表「非常連絡表」によるものとする。ただし、事故の内容によっては、運航管理者の判断で、沖縄総合事務局運輸部等及び海上保安部等を除き連絡すべき範囲を限定することができる。

(非常連絡事項)

第5条 事故等が発生した場合の連絡は、原則として次の区分により行うものとする。

(1) 全事故等に共通する事項

- ① 船名
- ② 日時
- ③ 場所
- ④ 事故等の種類
- ⑤ 死傷者の有無
- ⑥ 救助の要否
- ⑦ 当時の気象・海象

## (2) 事故等の態様による事項

	事故等の種類	連絡事項
a	衝突	① 衝突の状況（衝突時の両船の針路、速力等又は岸壁等への接近状況） ② 船体、機器、の損傷状況 ③ 浸水の有無（あるときはd項） ④ 流出油の有無（あるときはその程度及び防除措置） ⑤ 自力航行の可否 ⑥ 相手船の船種、船名、総トン数、（用）船主・船長名（できれば住所、連絡先） ー船舶衝突の場合 ⑦ 相手船の状況（船体損傷の状況、死傷者の有無、救助の要否等） ー船舶衝突の場合
b	乗揚げ	① 乗揚げの状況（乗揚げ時の針路、速力、海底との接触箇所、船体傾斜、吃水の変化、陸岸との関係等） ② 船体周囲の水深、底質及び付近の状況 ③ 潮汐の状況、船体に及ぼす風潮及び波浪の影響 ④ 船体、機器、の損傷状況 ⑤ 浸水の有無（あるときはd項） ⑥ 離礁の見通し及び陸上からの救助の可否 ⑦ 流出油の有無（あるときはその程度及び防除措置）
c	火災	① 出火場所及び火災の状況 ② 出火原因 ③ 船体、機器の損傷状況 ④ 消火作業の状況 ⑤ 消火の見通し
d	浸水	① 浸水箇所及び浸水の原因 ② 浸水量及びその増減の程度 ③ 船体、機器の損傷状況 ④ 浸水防止作業の状況 ⑤ 船体に及ぼす風浪の影響 ⑥ 浸水防止の見通し ⑦ 流出油の有無（あるときはその程度及び防除措置）
e	強取、殺人傷害、暴行等の不法行為	① 事件の種類 ② 事件発生の端緒及び経緯 ③ 被害者の氏名、被害状況等 ④ 被疑者の人数、氏名等 ⑤ 被疑者が凶器を所持している場合は、その種類、数量等 ⑥ 措置状況
f	人身事故（行方不明を除く）	① 事故の発生状況 ② 死傷者数又は疾病者数 ③ 発生原因 ④ 負傷又は疾病の程度 ⑤ 応急手当の状況 ⑥ 緊急下船の必要の有無
g	旅客、乗組員等の行方不明	① 行方不明が判明した日時及び場所 ② 行方不明の日時、場所及び理由（推定） ③ 行方不明者の氏名等 ④ 行方不明者の遺留品等

h	その他の事故	① 事故の状況 ② 事故の原因 ③ 措置状況
i	インシデント	① インシデントの状況 ② インシデントの原因 ③ 措置状況

### 第3章 事故の処理等

(船長のとるべき措置)

第6条 事故が発生したときに、旅客の安全、船体の保全のために船長が講ずべき必要な措置はおおむね次のとおりである。

(1) 海難事故の場合

- ① 損傷状況の把握及び事故局限の可否の検討
- ② 人身事故に対する早急な救護
- ③ 連絡方法の確立（船内及び船外）
- ④ 旅客への正確な情報の周知及び状況に即した適切な旅客の誘導
- ⑤ 二次災害及び被害拡大を防止するための適切な作業の実施

(2) 不法事件の場合

- ① 被害者に対する早急な救護
- ② 不法行為者の隔離又は監視
- ③ 連絡方法の確立（船内及び船外）
- ④ 旅客に対する現状及び措置状況の周知と旅客の軽率な行為の禁止
- ⑤ 不法行為が継続している場合、中止を求める不法行為者への説得

(運航管理補助者のとるべき措置)

第7条 運航管理補助者は、通常連絡、入港連絡等の船長からの連絡が異常に遅延している場合又は連絡なしに着岸が異常に遅延している場合は、遅滞なく船舶の動静把握のために必要な措置を講じなければならない。

2 運航管理補助者は、前項の措置を講じたにもかかわらず船舶の動静を把握できないときは、直ちに関係海上保安官署等に連絡するとともに第4条（非常連絡）に従って関係者に通報しなければならない。

3 事故の発生を知ったとき又は船舶の動静が把握できないときに運航管理者がとるべき必要な措置はおおむね次のとおりである。

- (1) 事故の実態把握及び救難に必要な情報の収集及び分析
- (2) 海上保安官署への救助要請
- (3) 行方不明者の捜索又は本船の救助のための捜索船又は救助船等の手配
- (4) 必要人員の派遣及び必要物資の補給等
- (5) 船長に対する必要事項の連絡及び助言
- (6) 医師、病院、宿舍の手配等の旅客の救護のための措置
- (7) 乗船客の氏名の確認及びその連絡先への通知

(事故処理組織)

第8条 事故処理の組織、編成は別表「事故処理組織表」のとおりとする。

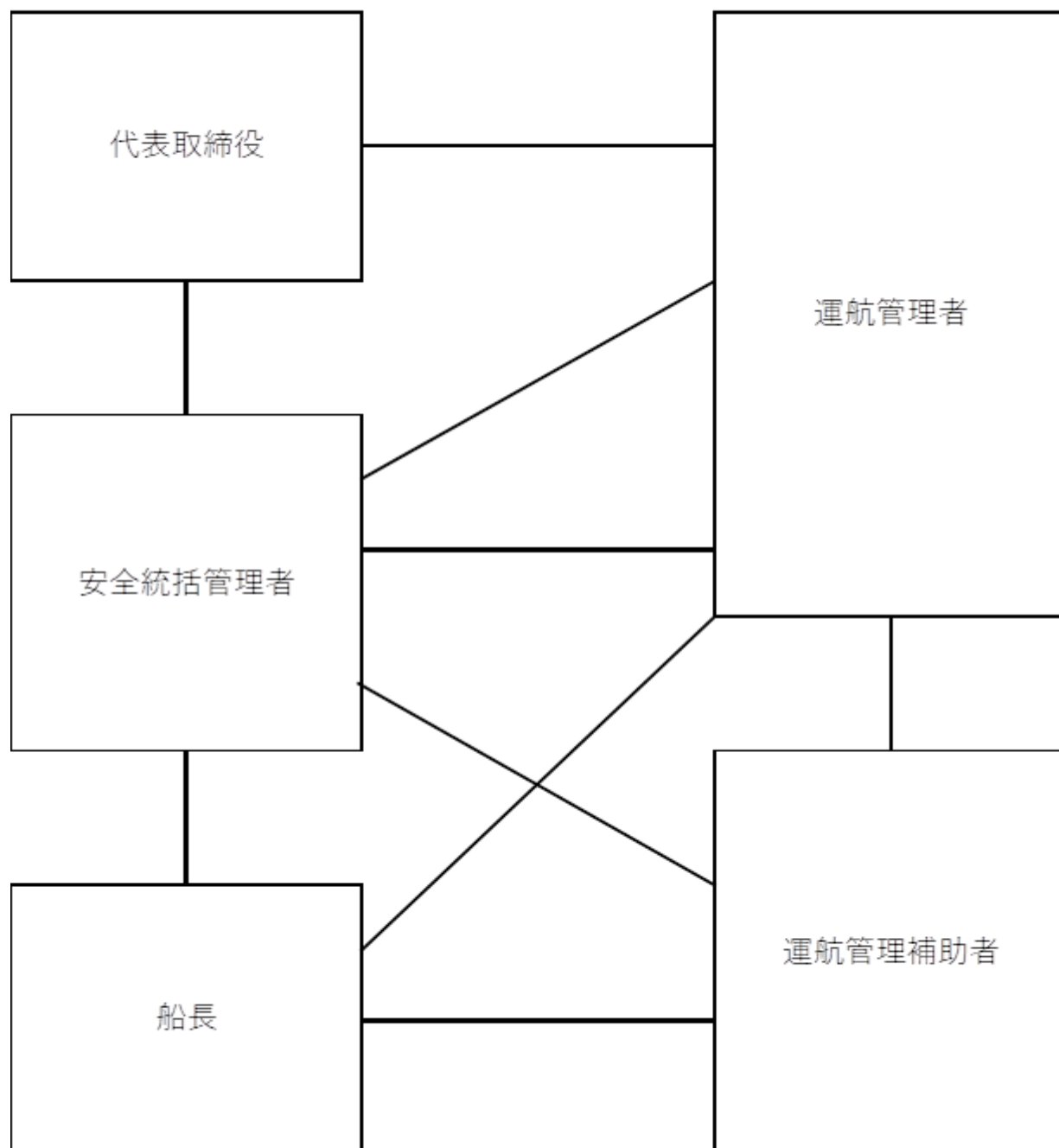
(医療救護の連絡等)

第9条 船長は、船内に医療救護を必要とする事態が発生したときは、乗船者に医師がいる場合はその医師の協力を要請するものとし、不在の場合であって急を要すると認められるとき、又は患者から要請があったときは最寄りの港に入港し、別表「医療機関連絡表」により最寄りの医師と連絡をとり、その指示のもとに適切な措置を講じなければならない。船長から連絡を受けた運航管理者は船長の措置を援助し、又は当該措置を引継ぐものとする。

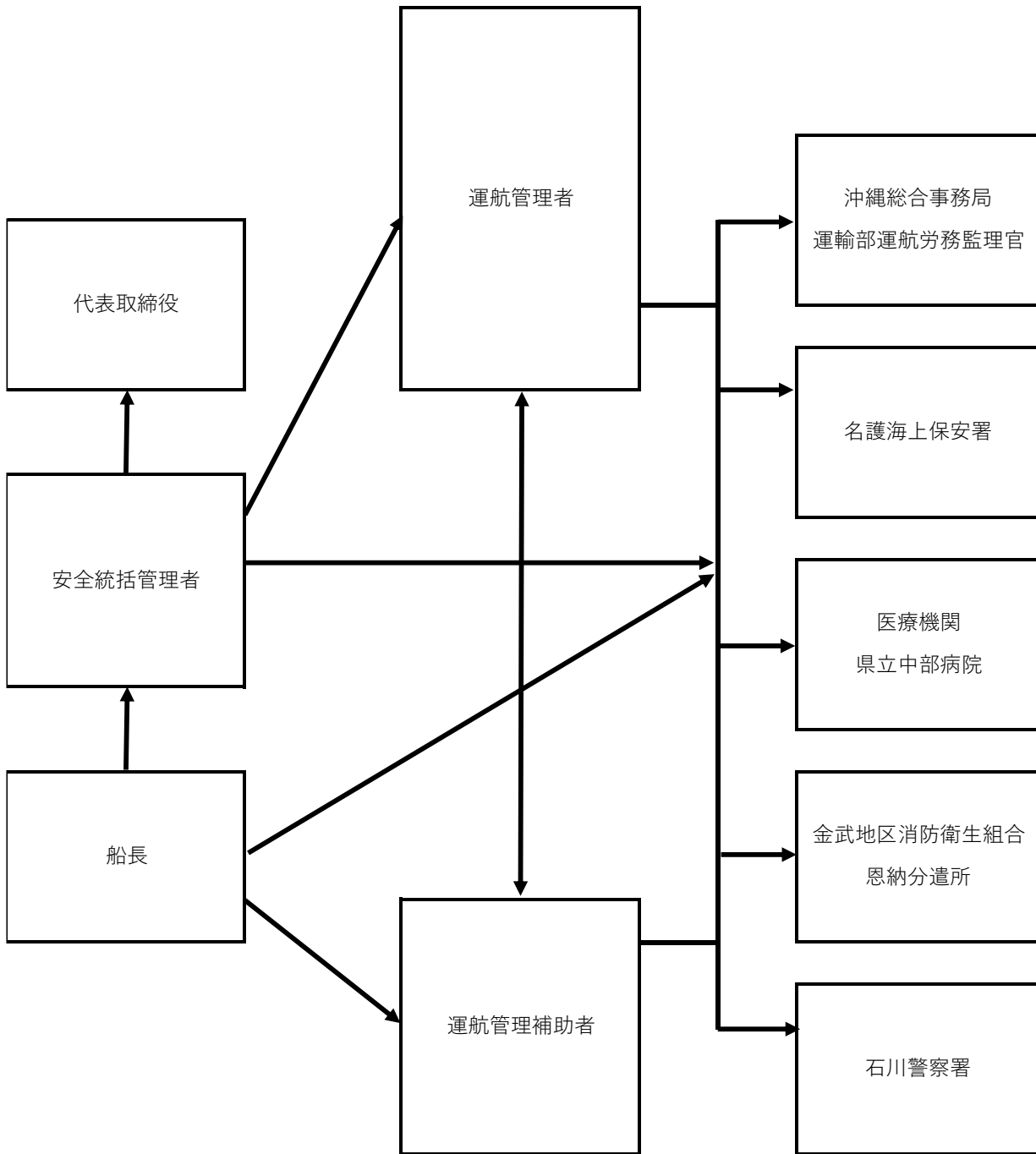
(現場の保存)

第10条 船長及び運航管理者は、事故の処理後関係海上保安官署等と連絡をとりつつ、運航に支障のない限り事故の原因の調査を行うとともに、事件の捜査の対象となる場所及び物品の保存に努めなければならない。

# 運航管理組織図



# 非常連絡及び医療機関連絡表



官公署連絡表

官公署名	電話番号
沖縄総合事務局 運輸部運航労務監理官	098-866-1839 090-7158-4323
名護海上保安署	0980-53-4999 0980-53-0118
金武地区消防衛生組合恩納分遣所	098-966-8118
石川警察署	098-964-4110

事故処理組織表

	職 務
経営トップ	総 指 揮
救難対策班 安全統括管理者	事故の事態の把握、事故関係情報の収集、船舶及び関係機関との連絡、救難実施その他救難に必要な事項に関すること。
旅客対策班 運航管理者	旅客及び被災者の把握、被災者の救護、欠航便の旅客処理その他旅客対策に関すること。
庶務対策班 運航管理補助者	被災者の近親者への連絡及び世話、報道関係者の対応（発表を除く。）救護関係物資の調達、補給、その他庶務に関すること。

## 船舶を使用したアクティビティへご参加のお客様へのご注意

次にあげる行為は、法令により禁止されており、これに違反すれば罰せられることがありますので  
ご注意ください。

1. 船舶内の操舵施設、運航のための設備、又はこれらの船舶に係る旅客乗降用可動施設の作動装置を操作すること。
2. 船舶内の立ち入りを禁止された場所に立ち入ること。
3. 船舶内の禁煙を指定された場所において喫煙すること。
4. 消火器、非常用警報装置、救命胴衣、その他非常の際に使用すべき装置や器具を操作、又は移動すること。
5. 石、硝子板、金属片、その他船舶や船舶上の人もしくは積載物を破損するおそれのある物を船舶に向かって投げる、又は発射すること。
6. 海中投棄を禁止された物品を投棄すること。
7. 他の旅客に不快感を与える、又は迷惑をかけること。
8. 船舶内の秩序や風紀を乱す、又は衛生に害のある行動をとること。
9. 病気、盗難等が発生した場合は、乗組員へ通報して下さい。
10. 下船及び非常の際には係員の指示に従って下さい。

ご理解とご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。